

教育実習 A		実習	教授 松下 晋 准教授 堤 ひろゆき
科目カテゴリー	教職科目	科目ナンバリング	25200306

1. 授業のねらい・概要

本講義は、教育職員免許取得を希望する学生が必修とされている「事前指導」「事後指導」のうち、「事前指導」を行うものである。具体的には、教育実習の意義、目的、教育実習の概要、教育実習生としての基本姿勢・生活態度、教育実習の心構え等と教科の学習指導案の作成及び模擬授業の実施・授業研究、教育実習日誌の作成など、教育実習に必要な内容について担当教員のもと教育実習生が相互に学習する。特に、模擬授業では情報機器の活用を積極的に心がける。これらの学習を通して、既習の教職教養科目で習得した基礎的教育理論を確実なものにするとともに、その応用・実践に向けて授業技術や授業について演習を行い、集団として学び、授業の観察・記録の技術を身に付ける。教育実習に必要な実践力の養成をめざす。

2. 授業の進め方

基本的には、学習内容を示したレジュメを配布し、講義、学生による学習指導案の作成と模擬授業の実施を中心に進める。また、模擬授業後の授業研究や学習課題に基づく意見交換等の学習活動も取り入れる。

3. 授業計画

1. 講義概要説明（オリエンテーション）	11. 授業技術の確認 2（模擬授業による授業研究の方法確認）
2. 中学校・高等学校の教育課程	12. 授業技術の確認 3（模擬授業による授業見学時の着眼点）
3. 教育実習の意義と目的（教育実習の意義）	13. 授業技術の確認 4（模擬授業による課題設定方法の研究）
4. 教育実習の内容と計画、心構え	14. 授業技術の確認 5（模擬授業による課題追究方法の研究）
5. 授業技術の確認 1（実践例の検討）	15. 総括
6. 授業技術の確認 2（教材、指導方法の検討）	
7. 学習指導案の作成と検討 1（授業成立要件）	
8. 学習指導案の作成と検討 2（授業構成時の注意点）	
9. 学習指導案の作成と検討 3（授業の目的と方法）	
10. 授業技術の確認 1（模擬授業による授業時の注意点）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

配布資料及び参考文献の読解に 30 分程度、グループディスカッションや発表、模擬授業に向けての準備に 1～2 時間程度を目安とするが、模擬授業に向けての教材研究は可能な限り行うことが望ましい。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各回の開始時と終了時、模擬授業、グループディスカッション及び発表等の後に講評を行う。

6. 授業における学修の到達目標

- ・既習の教育教養科目で習得した基礎的教育理論が確実なものになっている。
- ・教育実習に必要な技能・知識を身につけ、教員に相応しい基本的な資質能力を身につけることができる。
- ・教育実習生の遵守すべき義務と責任を理解する。

7. 成績評価の方法・基準

平常点（50％）、模擬授業（50％）の総合評価。

○平常点については、課題の提出状況・内容及び学習課題への取り組み態度を評価対象とする。

○模擬授業については、学習指導案及びこれを用いた授業実践等を評価対象とする。

8. テキスト・参考文献

文部科学省 中学校、高等学校の『学習指導要領』『学習指導要領解説 総則編』。最新のものの。
保健体育：文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』

9. 受講上の留意事項

- 1 学部2年生修了時の学業成績が、次の2つの「教育実習に関する学内規定」を満たしていること。
 - (1) GPA(Grade Point Average)値の総合が、2.0以上であること。
 - (2) 次の両方を満たしていること。
 - ①教育の基礎的理解に関する科目のGPAが、2.0以上であること。
 - ②教科及び教科の指導法に関する科目のGPAが、2.3以上であること。
- 2 遅刻・早退は、原則として欠席と見なす。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。